



日本環境教育学会 会長 中村和彦さん これからの日本環境教育学会 「研究と実践をつなぐ」

—— 会長就任おめでとうございます。

まずは日本環境教育学会の歴史や取り組みについて
教えてください。

私たちは日本環境教育学会は
1990年に任意団体として発
足し、2016年9月に一般社
団として法人化しました。環境
教育に関する研究及び実践の推
進を目的に、年次大会の開催や
学会誌の発行、各種研究会の設
置、国際交流等を進めています。
環境問題に関心を持ち、持続
可能な社会を実現したいと考
える幅広い市民と研究者・学生・
教師・実践者に支えられながら
活動をしています。



日本環境教育学会の会長に新たに就任した東京大学
大学院新領域創成科学研究科の中村さんに学会としての
取り組みや今後の展望をお聞きました。

—— 37歳で会長に就任するにあたり

周りからのプレッシャーなど大きいのではないですか。

プレッシャーはそれなりに感
じていますが、任期は2年間
と限られているので自分らし
く駆け抜けるとともに、小さ
くても目に見える成果を残し
ていきたいと考えています。私
が会長に就任したことで学会
としての世代交代が図られま
したが、若手の研究者であつ
ても活躍の場を作っていただ
ける学会の風土には大変感謝
しています。

私自身が年齢や実績に関
係なく会長に就任したよう
に、会員の方々も世代やジェ
ンダー、立場等の違いを超え
て、各々の能力を最大限発揮
できる学会を目指したいです
ね。これらを実現するため
も、私ひとりの力では限り
があるため、周りの方々に応援・
協力してもらえらる組織づく
りを進めていきたいと考えてい
ます。

聞き手：加藤 超大 (JEEF)

※ GIGA スクール構想：令和時代のスタンダードとして、学校 ICT 環境を整備する文部科学省の取組み。
(Global and Innovation Gateway for All)

気候危機や生物多様性の損失に代表されるように、われわれが暮らす地球は非常に危機的な状況を迎えています。そのため、例えば気候変動対策として「こまめに電気を消しましょう」や「エアコンの温度を上げましょう」といった個人の行動変容だけに留まらず、カーボンニュートラルのための社会システムの変容にまで結びつくような環境教育が、今後ますます求められてくる

と考えています。日本環境教育学会では、社会システムを変革するための環境教育を推進すべく、そのようなユース世代の活動を表彰するための仕組みづくりを新たに始めています。また、GIGAスクール構想(※)などで急速に普及が進んでいるデジタル技術についても、自身の専門性と研究成果を活かしつつ、環境教育における活用のための知見を学会として蓄積していきたいですね。

冒頭でもお伝えしましたが、日本環境教育学会は「環境教育に関する研究及び実践の推進を目的」としており、約千名の会員が所属しています。環境教育に関する様々な情報が入手できるとともに、人と人をつなぐネットワーキング

の場を提供しており、多様な価値観に触れることができ、研究と実践をつなぐことを大切にしていきますので、実践者の方々も是非ご入会いただき、スキルアップにつなげていただけると大変嬉しいですね。

最後に、読者の方へのメッセージをお願いします。

——同年代の仲間として環境教育の推進に向けて協力して進めていきたいですね。ちなみに、中村さん個人として環境教育にどのような課題意識をお持ちでしょうか。



中村 和彦 (なかむら かずひこ)

1984年8月生まれ。長野県千曲市出身、千葉県流山市在住。東京大学農学部森林環境科学専修卒業、同大学院新領域創成科学研究科で博士(環境学)取得。現在、東京大学大学院新領域創成科学研究科講師、日本環境教育学会代表理事・会長。専門は森林環境教育におけるICT活用の方法論。

日本環境教育学会 会員募集中!

種類	入会金	年会費
正会員(一般会員)	1,000円	8,000円
正会員(学生会員)	なし	4,000円
団体会員	2,000円	15,000円
賛助会員	なし	20,000円



★入会手続き等の詳細は学会ウェブサイトをご確認ください。

<https://www.jsfee.jp/general/membership-application>